



遠登志橋 (新居浜市)

すが、一昨年、新居浜で産業考古学会の全国大会があったときに由来を聞くことができました。実はここの地名自体が「落トシ」という名称なんです。ですから音としては同じなんです、「落トシ」という字をそのまま使くと、「橋が落ちる」に通じる、それはよくないので、「はるか

遠くに登って志を果たす」というのでしょうか、このような漢字にしたということを新居浜市の横井邦明さんにお聞きしました。しかもこの材料はドイツからの輸入品で、その辺のことなども現在調査が進んでいるということです。



長浜大橋 (大洲市)

次は、みなさまご存じの長浜にある可動橋です。私が最初に愛媛県に来たきっかけが、長浜大橋です。なぜかというとは東京の隅田川にあります勝鬨橋の「あげる会」の代表もしているのですが、全国の可動橋を調べていたとき岡崎さんに「うちにもこういった可動橋があるんだよ」と教えていただき、見に来たのがはじまりです。愛媛県との最初のきっかけをつくってくれた橋です。当時地元では全国で一番古い可動橋というキャッチフレーズだったのですが、いろいろ調べていくとそれより古い鉄道橋の可動橋などもありました。現在では、「現役最古の道路可動橋」というのが、長浜大橋の正式なキャッチフレーズです。非常に貴重な橋で、これは文化庁も注目しているのですが、いずれは国の重要文化財になるのではないかと思います。地元の働きかけも大切なことは

もちろんです。鉄道橋の可動橋が四日市市にあり、それは重要文化財になっています。また九州の筑後川には、鉄道橋の可動橋の筑後川橋梁があります。鉄道が廃止になり、撤去の計画もあったのですが、地元の保存要望もあって、現在は、観光用の歩行者専用橋として可動しています。これも国の重要文化財です。長浜大橋は、川幅が広げられたために右岸端部のトラス桁が最近新しいトラス桁に代わったのですが、新しいトラス桁は溶接ではなく、むかしと同じようにリベット構造でつくられ、文化財的な配慮がなされています。そういうことも含めて、国の重要文化財指定に向けて働きかけるといいのではないかと思います。

このスライドは八幡浜市の明治橋という橋です。昭和5年に造られたものです。もともとは明治になってはじめてこの地に橋がつけられたことが橋名の由来になっています。見てのとおりコンクリートのアーチ橋です。全国的なレベルでも、非常に貴重な橋です。この種のタイプとしては、わが国で3番目に古いコンクリート・アーチ橋で、現役の橋としては最古。技術的にも貴重です。コンクリートというのは圧縮に強いわけですから、下の部分がアーチになっている上路式のアーチ橋だと、技術的に納得できます。しかし明治橋のようにアーチが道路面より上に位置すると、桁のところに引っ張り力が働き、材料的に無理なつくりですから、こういったローゼタイプの下路橋の橋はあまり見られません。構造的に若干無理、ないしはむずかしい橋をなぜつくったのかというと、おそらく当時優秀な技術者が愛媛県にいたのではないかと、可動橋も含めてですが、そのように思います。



明治橋 (八幡浜市)

それと、愛媛の橋梁面で注目すべきことは、先ほどの明治橋を含めコンクリート・アーチ橋の先進県ではないかと、橋梁仲間で話題にしています。技術的な先進県であるとともに、デザイン的にもすぐれたコンクリート・